

令和8年度 県立石岡第一高等学校自己評価表(全日制)

目指す学校像	(1) 創立 115 年を超える歴史と伝統を受け継ぎ、学科の特色を生かし、地域における教育の中核として「魅力ある学校」「信頼される学校」となる。 (2) 生徒一人一人が個性を伸ばし、将来の夢を実現するための知識・技能を身に付け、自信と誇りを持てる学校となる。 (3) あらゆる教育活動の場面で、生徒が主体的に行動し、活気に満ちた学校を目指す。			
三つの方針		具体的目標		
三つの方針 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1) 進学に向けた組織的・計画的な指導を充実させ、生徒の学習意欲とキャリアデザイン力を育成する。 (2) 授業の内容や方法を工夫・改善するとともに、生徒の主体的な学習習慣の定着と確実な学力の向上を図る。 (3) 生徒の規範意識を高める指導と心の教育を充実させ、自己指導力や互いを尊重する態度を育成し、人間性の向上を図る。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程の編成・実施 (2) 生徒の興味関心を最大限引き出し、生徒が主体的に活動する授業の実践 (3) 「総合的な探究の時間」を充実させ、大学等との連携や教科間連携をした探究型の学習の展開 (4) 豊富な地域人材を活用したキャリア教育の展開 (5) 進学から就職まで多様な進路に柔軟に対応する指導の充実 (6) 学校行事や課外活動、ボランティア活動等のさまざまな体験を通じて、主体性と協働性を養う学習機会の充実		
	「入学者受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(1) 学習意欲があり、基本的生活習慣や規範意識が身についている生徒 (2) 他者の意見を素直に聞くことができ、その考えを尊重することができる生徒 (3) 生徒会活動や部活動、地域活動等に対して、積極的のチャレンジできる生徒 (4) 自分の考えを様々な場面で発表し、表現する意欲を持っている生徒 (5) 専門的な知識・技能を習得し、その力を活かして地域の農業や産業を担い、リーダーシップを発揮して地域社会の発展に貢献しようとする意欲のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
学習指導の充実と部活動の活性化を両輪とした文武両道の教育活動を実践し、生徒一人ひとりへの丁寧な支援に努めた。 令和 8 年度入試では、国公立大に 27 名が現役合格。県内の国公立大学では茨城大 12 名、県立医療大 1 名が現役合格。また、立教大などの私立大学にも多数合格した。今年度は国公立大学現役 30 名以上の合格を回復し、さらに難関大学合格者数の増加を目		学力向上	(1) 授業時間数と授業時間の確保に努める。 (2) 授業方法を改善し、「主体的・対話的で深い学び」を推進する。 (3) 自学自習・家庭学習習慣の定着を図る。 (4) 「生活・学習プランニング力」の向上を図る。 (5) 総合的な探究の時間の展開を研究し、改善する。 (6) 特別支援教育を推進する。	
		進路希望の実現	(1) 組織的・計画的指導を推進し、志望校への合格を目指す。 (2) 個別面談を充実させ、進路希望を明確にする。 (3) 課外授業等の計画的実施と主体的な学習活動を促進する。	

指す。就職等では、公務員 3 名、地元企業等に 45 名が合格し、昨年度も学校推薦による内定率 100%を達成した。 部活動においては、ウェイトリフティング部と弓道部が全国大会出場を果たした。また、文化部においても県総合文化祭をはじめ多くの催事へ積極的に参加した。今年度も、多くの部活動が実力高く、大会上位入賞や県代表となる期待が持てる。 農業学科においては、専門教育の充実に努めるとともに、地域貢献活動も積極的に行っている。 今年度も引き続き、生徒一人ひとりの人間性および学力の向上を支援し、生徒が自ら考え、学び、充実した高校生活を送り、進路希望を実現できるような指導体制および支援内容の充実を図る。		学
---	--	---

国 語		生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。		
	思考力を伸ばし、想像力を養い、心情を豊かにする。	表現力を養うために、主体的で対話的な学びを取り入れた授業を積極的に行う。		
	情報化・国際化時代に対応できる力を培う。	副教材や視聴覚教材等を活用して、古典の世界に視覚的・聴覚的に親しませる。		
		学校図書館の資料やインターネットを通して得た情報を随時取り入れて授業を展開する。		
	進路希望を実現するための国語力を涵養する。	学科別・コース別に教材内容を吟味し、指導方法を工夫する。		
		3年間を見通して、順次難度を高めた問題演習を行い、実力養成に努める。		
		補習・課外・個別指導等で、進路希望に沿って丁寧に対応する。		
地 歴 公 民	歴史的・地理的事象に関心を持ち、国際社会の変化に対応できる知識・考察力を身に付ける。	歴史的・地理的事象を複眼的に考察し、因果関係を考えさせる。		
		地図や資料を活用し、地理的特徴を把握させる。		
		現代の国際社会における政治経済の仕組みを理解させる。		
	多様な方法を駆使し、現代社会の諸問題を考察し、主権者として主体的に、よりよい生き方を追求する。言語活動の充実を図り、表現する能力を身に付ける。	ICTを活用して自ら調べ、多面的・多角的に考察させる。		
		社会参加の方法を考えさせ、青年の生き方を追求させる。		
		言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を問う問題を出題する。		
		生徒の学びとともに教師自身の学びを転換し「主体的・対話的で深い学び」を実現する。		
	進路を実現するための実力を養成する。	共通テストを意識して、授業・課外等を充実させ、進路が実現できるように指導する。		
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善し、進路実現のための実力を養成する。		
数 学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、表現・処理する技能を身に付ける。数学的な表現を用いて事象を簡潔・的確に表現する力を養う。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。	週末課題や長期休業中の課題、生徒への声掛けを通して家庭学習の時間が増えるよう促す。		
		授業での発表を通して自ら考え、根拠を持って自分の考えを表現する経験を増やす。		
		模擬試験の分析や、教科内での情報交換、教材研究を行い、指導に活かす。		
		平日の課外や、長期休業中の課外、副教材の活用、模擬試験への対策を通して、大学入試に対応できる学力を伸ばす。		
		主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に考察し、判断することができる能力を伸ばす。また、生徒による授業評価等をもとに日々授業改善に努める。		
		定期的に小テストを行い、基礎学力の向上をはかる。		
		授業準備やチャイム着席を徹底し、望ましい態度を育む。		
理 科	基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	補助教材に計画的に取り組ませる。		
		定期的に小テストを行う。		
		生徒による授業評価をもとに日々授業改善に努める。		
	科学的に探究する力を養う。	実験や観察等を取り入れた授業を展開する。		
	科学的思考力・判断力・表現力等を身に付ける。	日常生活と関連した課題を用いて、ペアワークやグループ活動等、言語活動の充実に焦点を当てた活動を行う。		

保 健 体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。	【保健】 ・健康に関する正しい知識や情報を選択できるよう探究学習や調べ学習の時間を設ける。 ・個人及び社会生活における振り返りや計画を図る活動を行う。		
		【体育】 ・各運動の特性や魅力が味わえる授業を展開する。 ・生徒が主体的に運動に関われるよう自己決定の場として種目の選択制を取り入れる。		
芸 術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。	様々な活動を数多く体験することにとどまらず、生徒一人一人が内発的な動機に基づきながら、表現活動や鑑賞活動に主体的に関わることができるようにする。		
		創作活動の中で個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ、新たな価値を見いださせたりなどし、創造的な能力を高める。		
		我が国及び諸外国の芸術文化に対する理解を深め、尊重する態度を育成する。		
英 語	語彙や文法など、基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける。	単語テストや例文の暗唱テストなどの小テストを定期的に行い、基礎学力の向上を図る。		
		予習・復習の習慣の定着のため、ノートの取り方の指導・定期的に点検する。		
		英文法の効果的な理解を目指し、体系的にまとめた教材等を用いながら十分な問題演習を行い、進路実現に対応できる学力を育成する。		
		英語検定準2級～2級の取得を推奨し、英作文やリスニング指導の充実を図る。		
	聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを伝える能力を養う。	教科書だけでなく共通テスト等に対応した様々な教材を使用し、速読力や精読力の伴った読解力の育成に努める。		
		3年間を見通したリスニング教材を継続的に使用し、ある程度まとまった英文を聞く力を伸ばす指導をする。		
		授業中にクラスルームイングリッシュを積極的に使い、インタラクティブな授業展開をする。		
		スピーチやライティングの機会を継続して取り入れ、能動的に英語を使用する場面を増やす。		
家 庭	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	ペアワークやグループワークを積極的に取り入れる。		
		全ての学年において ALT とのチームティーチングの授業を積極的に取り入れることで、自らコミュニケーションをとろうとする態度を育成する。		
	家庭や地域における生活の充実・向上を図る態度を育てる。	現代社会の現状や課題を理解し、調べ学習や各々の考え方を共有するうえで ICT を効果的に活用し、生活を営む確かな考え方の定着や多様な考え方を受け入れる態度の育成に努める。		
	基礎的な知識や技術を身に付ける。	体験学習および実験・実習を通し、基本的な知識や技術と科学的に探究する方法を身に付け、自立に向けて家庭生活で応用できる力を育成する。		
	自己実現を志向して主体的に生活を創る能力を養う。	日々の生活の中での課題を見つけ、解決する能力を育成するとともに、家庭及び地域社会の一員としての役割を果たすための資質を育てる。		
	問題解決能力の育成	情報技術・情報通信ネットワークなどを活用し、情報を適切に収集・処理・発信するため		

情 報	情報社会への主体的参画 情報に関する科学的な見 方。考え方の育成	の基礎的な知識と技能を習得する。		
		情報モラルやセキュリティを意識した適切な判断ができるようにする。		
		教科の研修等に参加し、他校の事例を学ぶ		
教 務	学習評価の質の向上	「主体的に学習に取り組む態度」を評価するための具体的な基準や方法を整理し、教科間の バラつきを抑えた客観性の高い評価基準を策定する。		
	ICT 活用の標準化	教員相互の授業見学への参加を促し、デジタルツールの活用手法を共有する。		
		利用しやすい ICT ツールを紹介し、教員が試しやすい環境を作る。		
	言語活動の質の向上	各教科の特性に応じた質の高い言語活動の例（説明、発表、レポート作成など）を組織的 に計画・実施し、授業見学等を通じてその成果を共有する。		
	総合的な探究の時間の質 の向上	全校的な計画・実施体制を構築し、学年を越えた連携とノウハウの共有を目指す。		
	特別支援教育における個 別のニーズへの対応の強 化	「特別支援教育校内委員会」を中心に、顕在化した個別ニーズに対し、合理的配慮に基づ いた具体的な対応策を検討・実施する。		
	授業時間数と授業時間の確 保に努める。	急な年休等に伴う填補でも授業の質を担保できるよう、予め填補の順番を決めておく等の 対応方法をルール化する。		
	中学校や地域に向けての情 報発信を強化する。	各学年・分掌と連携し、学校ホームページ等の即時的な情報の更新と内容の充実に努める。		
		外部の進路相談会に積極的に参加し、広報に努める。		
		学校説明会の実施方法、内容について見直しを行う。		
	図書館利用の促進を図る。	館内蔵書を充実させる。		
		「図書館だより」などを通して、生徒の読書に対する関心を高める。		
		館内の装飾を工夫し、明るく利用しやすい雰囲気作りを目指す。		
		館内でのマナーの指導を徹底する。		
	委員会活動の活性化を図 る。	図書委員全員に係を振り分け、役割分担を明確にして自覚を促す。		
		校内・校外での図書委員対象の研修会に積極的に参加させる。		
生 徒 指 導	生徒指導方針の共通理解を 図り、生徒指導基準を明確 化する。	生徒指導部から情報を発信し、生徒指導上の現状と問題点を迅速に周知させる。 組織として生徒指導に取り組むための体制を構築するとともに、生徒にも目指すべきもの を明確化して周知を図り、効果的な支援、指導を実現する。		
	いじめ防止、規範意識を醸 成する。	学習活動、特別活動、学級活動など、学校生活全体において、互いの個性や多様性を認め 合い、協働意識や規範意識を向上させることで問題行動の未然防止に努める。		
	対話指導の推進を図る。	身だしなみや化粧・アクセサリー等の使用など、容姿指導を重点目標とする。		
	基本的生活習慣を確立す る。	基本的生活習慣の確立のため、家庭の協力も得て継続して指導する。		
	校則の見直しを図る。	教職員、生徒、保護者の意見なども取り入れながら定期的に校則について見直しを図る。		
進 路	進路意識の高揚を図り、質 の高い進路実現を目指す。	大学模擬授業や職業ガイダンスなどの機会をとおして、様々な分野への関心を高める。		
		進路情報交換会、学力検討会などを通して、各学年間の進路情報の共有を図る。		
	生徒の実態把握と学力向上	外部模擬試験を実施し、受験結果をベネッセ・河合塾等で分析し、入試動向や本校生のデ		

指 導	を図る。	一タを提供し、学力向上及び 進路指導に生かす。		
		多様化している生徒の進路に対応するため学年との連携を密にする。		
	適切な進路情報の提供を行う。	進路情報を多種多様な資料から精選し、各学年へ積極的に提供する。		
		進路指導室内の進路資料の充実を図り、生徒・職員共に利用しやすい環境にする。		
特 別 活 動	部活動の活性化	生徒の主体的な参加を促進するため、部活動紹介や体験機会の充実、活動内容の発信、外部指導者との連携等を通して部活動の活性化を図る。		
	生徒会活動の充実	生徒の自治能力を育成するため、生徒会による課題提案や意見集約の機会を設け、生徒主体の運営を推進する。		
	学校行事を通した主体性の育成	学校行事において企画・運営段階から生徒が参画する体制を整え、主体性や協働性の育成を図る。		
	地域連携の推進	地域社会との関わりを深めるため、ボランティア活動や地域連携事業への参加を促進する。		
	特別活動の経験を振り返り、自己の成長を自覚し、主体的に行動する力を育成する。	各行事やホームルーム活動後に振り返りを行い、学びや成長を言語化させるとともに、学期ごとの目標設定と自己評価を通して次の行動につなげる。		
保 健 厚 生	健康管理の意識を向上させる。	定期健康診断の意義を生徒に理解させる。		
		毎月 1 回保健だより等で最新の健康情報を提供し、生徒の自己管理能力を育成する。		
	防災に関する知識を習得させる。	防災避難訓練を実施し、災害時に適切な行動を選択できる能力を育成する。		
	教育相談体制を充実させる。	スクールカウンセラーの活用を強化し、専門的な立場からの助言をもらい、生徒ひとりひとりの学校生活を支援する。		
	生活環境を整備する。	生活環境の整備に努め、より安心・安全で快適な生活ができるようにする。		
		ストーブ・エアコンの安全管理と適切な使用に努める。		
渉 外	持続可能な PTA を目指して PTA 活動の見直しや、組織の効率的運営に努める。	PTA 本部役員と連携しながら、PTA 活動の見直し・運営の効率化を継続的に進める。		
		PTA 行事における参加確認、各種会議の出欠確認などは、Google forms など ICT 技術を積極的に取り入れる。		
	保護者と教職員が協力して、生徒の健全な発達を支える教育環境の充実に努める。	PTA 総会、PTA 運営会議、学年委員会を通して、保護者からの質問、意見や要望等を吸い上げ、生徒の学校生活がより充実したものとなるように関係分掌と連携して、改善を図る。		
		高 P 連の行事に積極的に参加し、先進事例を学び、本校の活動に活かす。		
		保護者向け進路セミナーを開催し、キャリア教育に関する情報を共有し、保護者が生徒の進路形成に主体的に関わる一助とする。		
	同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図る。	同窓会総会、卒業 50 周年祝賀会、同窓会入会式などの行事が円滑に実施できるように同窓会活動を助成する。		
	茨城県予算の適正な執行を図る。	適正な事務処理を行うことは勿論コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行を心がける。		

事 務	施設設備の適正な管理を実施する。	事務職員と技術職員及び農場職員が連携を図り、施設等の修理箇所への対応を早期に実施する。また、学校施設設備による事故が発生しないよう、職員全員で校内巡視等を実施していく。		
	事務室の業務効率化を図る。	日々の業務の課題や問題点を洗い出し、より効率的に進める方法を検討し時間的なコスト削減を推進していく。		
農 業	学力の向上を図る。	教材の工夫や ICT の活用により授業内容へ興味を持たせ、農業学習への意欲を高める。		
		実験実習の効果的なフィードバックを授業で行い、学習内容の定着を図る。		
		授業や実習にグループワークやレポート等を積極的に取り入れ、コミュニケーション力・問題解決力・表現力の育成を図る。		
	農業に関する興味・関心を高め、農業の意義や役割を理解させると同時に、専門的な知識と技術の習得を推進する。	様々な場面で農業と環境の関わりを意識させ、「食」、「農」、「命」の大切さを理解させ命を育む学習を展開する。		
		資格取得を推進する。（各種技能検定・講習会の受講等）		
		社会人講師等を積極的に活用し、技術の向上を図る。		
		整理整頓および安全確保を徹底する。（実習時の実習服・ヘルメット着用の徹底）		
	農業クラブ連盟の活動を推進する。	上級学校や農業関連施設の訪問、インターンシップを通して、キャリア教育を推進する。		
		生徒主体の運営を支援し、「科学性」「社会性」「指導性」の育成を行う。		
	上級学校への進学を支援する。	プロジェクト発表・意見発表に向けて、継続的に研究活動を支援する。		
		早期からの個別指導を充実させ、四年制大学等への進学を支援する。		
	地域に開かれた農場を目指す。	様々な行事をとおして、地域や異校種間の交流（近隣市町村施設、特別支援学校、幼稚園等）を推進する。		
	施設設備を整備し、安全かつ適正に運用する。	生徒が安心して授業が受けられるように、農業施設の維持管理（更新・修繕）を行う。		
		環境に配慮した実習を行う。環境負荷の軽減に配慮した圃場運営を行う。		
		農薬の管理を確実に行う。 （購入・保管・廃棄・保管庫の施錠・保管庫の鍵の管理・記録簿への記入）		
		備品や農機具の管理を確実に行う。（保管・整備・購入・廃棄）		
		消毒・施肥・剪定・収穫を適期に実施し、梨園・温室等を良好な状態に保つ。		
		有機 JAS 規格に適合するように葡萄園の管理を行う。		
		生産管理を適切に行う。		
	職員研修の充実を図る。	積極的に研修を行い、指導力・技術の向上を目指す。		
園 芸	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	栽培作物を精選しプロジェクトの充実を図る。		
		栽培をとおし命の大切さを学び、基本的知識を習得し農業への関心を高める。		
	資格取得を推進する。	日本農業技術検定試験 3 級取得 100%（卒業時）を目指す。		
		ビジネス実務検定 3 級取得 100%（卒業時）を目指す。		
		実用英語技能検定 3 級以上取得（卒業時）を目指す。		

	専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	多くの品種を導入することにより基礎的栽培技術を学び野菜栽培への興味・関心を高める。【露地野菜】		
		施設栽培により高度な技術を学び、今後の栽培学習の向上を図る。【施設野菜】		
		環境に優しい果樹栽培を実践し、有機JASへの知識・技術を深める。 IoTやICT技術を活用し、管理作業軽減のための技術を学ぶ。【果樹】		
		社会人講師を活用し、最新の技術を習得し草花への関心を高める。 フラワーアレンジメント検定3級取得100%（卒業時）を目指す。【草花】		
造 園	基本的な知識や技術の習得のために、魅力的な授業を実践する。	設計を具体化する実習を通して作庭の喜びを感じ、環境緑化や造園土木への関心を高める。		
		校内外の教材を積極的に実験実習指導に取り入れ、プロジェクト学習の充実を図る。		
		社会人講師やマイスター制度を積極的に活用し、基礎的な造園技術の向上を図る。		
	資格取得を推進する。	造園技能士3級の資格取得100%（卒業時）を目指す。		
		造園技能士2級取得へ向けた指導体制の確立を図る。（合格目標5名以上）		
		マイスター派遣事業による実技指導を受け、基礎から応用まで幅広い技術を身につける。		
	施設・教材の管理を適切に行う。	各圃場の整備や機械の点検・整備、道具や農具の安全管理に努める。		
		樹木見本園の剪定等を定期的 to 実施し、生きた教材として有効活用する。		
	専攻ごとに魅力ある授業を展開する。	多種多様な造園材料の特性や性質を学び、美的かつ機能的な材料の選択、使用方法を身につける。（材料）		
		造園技術理論や施工・管理実習を通して、利用する人や目的を考えた園を造る。（施工）		
		人と自然が共生する環境（農場の池）を整備・設計する。（材料）		
1 学年	高校生としての自覚および基本的生活習慣の確立を図る。	学校生活のあらゆる場面を活用して、高校生としての自覚を促すとともに、挨拶・身だしなみ・清掃の指導を徹底する。		
		遅刻カードを活用して基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識を養成する。		
		家庭との連携および情報共有を図り、問題行動等の未然防止に努める。		
		個別面談を実施し、生徒理解に努める。		
		学年内・教科内での連絡を密に取って情報を共有し、生徒の指導に活かす。		
	自主的に学習に取り組む態度の育成および進路意識を高める。	タブレット端末や学習記録表を活用し、自己管理能力の育成を図る。		
		進路指導部と連携し、職業ガイダンスなどを通して進路情報の収集を図るとともに、キャリア意識を高揚し、将来に対する目標を持たせる。		
		自宅学習課題、小テスト等を工夫して家庭学習の習慣化を図る。		
		部活動、学校行事への積極的な参加を促し、生徒の向上心や達成感を促進する。		
		平常課外や長期休業中課外等を実施し、学力向上を図る。		
	基本的生活習慣の確立とモラル・マナーの定着、素直な心と他者を重んじる態度を育成する。	元気な挨拶と場に応じた言葉遣いや対応ができるようにする。		
		感謝と反省のこトバを素直に口に出し、相手に伝えられるように指導する。		
		高校生としてふさわしい容姿を心がけ、集団生活におけるルールやマナーの大切さを理解させる。		

2 学年		安易に欠席や遅刻をさせず、その時々活動に全力で取り組むことを指導する。		
	基礎学力の向上を図り、卒業後の目標を明確にさせて、その実現に向けて努力する態度を育成する。	基礎基本の徹底を意識した授業作りの徹底に努めつつも、受け身一辺倒にならないよう議論や発表の場を設ける。		
		授業第一主義を掲げて授業工夫や改善に努める。		
		授業担当者会議を開いて情報交換を行い、成績不振者については、考査等の成績等を参考に適宜補習を実施して学習の意識を高めさせる。小テストや各種課外授業を実施し、自らの意志で主体的に学習に取り組む姿勢を育て、やらされる学習からの脱却を図る。		
	進路決定のための個々に応じた具体的支援を行うことで主体的に活動する態度を育成する。	職業研究、学問研究の時間を設けて将来の職業、卒業後の進路実現に向けて意識の高揚を図る。		
		LHRやMIRAIを用いて就職に向けての準備や進学先の選択をさせる情報を提供し、修学旅行後は進路決定に向けて生徒個々が目標達成に向かう雰囲気作りをする。		
		進路指導においてクラス間の差が少なくなるよう担任間の連携を密にして、就職指導の経験と進学指導の経験とを共有する。		
		面談等で生活状況や学習状況を把握し、進路情報を発信することで生徒の自己実現に向けた支援を行う。		
3 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着を図る。	欠席・遅刻・早退等について、家庭との連絡を密にし、連携を図る。		
		個別面談を実施し、生徒理解や学習状況の把握に努めるとともに、適切な指導援助を行う。		
		社会性を意識させ、服装や頭髪等の身だしなみの指導を徹底し、あいさつを励行させる。		
	主体的な学習態度の育成および確実な学力の向上を図る。	学校行事やホームルーム活動および部活動等を通して、豊かな人間性の育成に努める。		
		生徒が落ち着いて学習に集中できる環境作りに努める。		
		予習・復習を励行し、授業を工夫して主体的に授業に取り組ませる。		
		課題を工夫するなど、家庭学習の習慣化を図り、進んで学力の向上に取り組む姿勢を持たせる。		
	進路指導の充実および進路希望の実現を目指す。	学年団および教科内での連絡を密にし、情報を共有することによって指導に活かす。		
		各種ガイダンスを実施するなどキャリアデザイン力を育成し、自分の意志で進路を実現させる意識を持たせる。		
		スタディサプリや模擬試験を活用し、学習に対する意識を向上させる。		
		進路指導部と連携して組織的・計画的な指導を推進し、生徒の積極的思考や行動を引き出す。		
		平常課外や長期休業中における課外等に積極的に参加させ、学力を向上させる。		
		面談を通して生活状況と学習状況を把握し、自己実現のための支援を行う。		

※ 評価基準： A 十分達成できている。 B 達成できている。 C 概ね達成できている。 D 余り達成できていない。 E 達成できていない。